

+

はじめの一步
～キリスト教入門～



深澤 信行 著

この本は、キリスト教にはじめて触れる人向けに書きました。まだ、教会に通ったことが無い人や、キリスト教に興味はあるのだけれど、教会へ通うのは抵抗がある、という人に向けて書いた本です。

この本は、キリスト教について、簡単に説明しています。あまり難しいことは説明していません。難しいことは、とりあえず抜きにして、キリスト教に触れてみて欲しいと思ったからです。

クリスチャンの方は、この本読んで「これぐらいなら私でも書ける。」と書いていただけたら幸いです。そう思われたなら、ぜひキリスト教関係の本を書いてみてください。キリスト教の入門書でもいいし、自分のキリスト教に関する経験談でもいいと思います。そういうキリスト教に関する本が多くあったら、もっと世の中が楽しくなるでしょう。

キリスト教を一言で言うとどうなるでしょうか。私は愛という言葉が一番ぴったりすると思います。キリスト教は、愛の宗教と言えるのではないかと思います。

聖書にも「神は愛です。」（ヨハネの手紙第一4章16節）と書かれています。

もし、人々が愛に満たされるなら、多くの問題は起こらないと思います。例えば強盗や殺人や詐欺などの犯罪は、起こらないのではないかと思います。この愛の重要性は、クリスチャンじゃなくてもわかるのではないのでしょうか。人間にとって愛は生きて行くのに必要なものです。

人間は、愛し愛され、相互に助けあって生きて行くものなのです。人間は、愛がなければ生きて行けないのです。このことは、読者のみなさんもわかると思います。

結局のところ、愛が一番大切なのです。

「こういうわけで、いつまでも残るものは信仰と希望と愛です。その中で一番すぐれているのは愛です。」

（コリント人への手紙第一13章13節）

2012年7月

深澤信行

もくじ

～ はじめに ～

- 世界で一番売れている本って、どんな本？
- 聖書には、いろんな訳があるの？
- イエス・キリストってどんな人？
- クリスチャンって、みんないい人？
- どこの教会に行けばいいの？
- 修行しなくていいの？
- 献金しなくちゃいけないの？
- 神様ってどこにいるの？
- キリスト教の信仰とは？

～ おわりに ～

●世界で一番売れている本って、どんな本？

世界で一番売れている本は、聖書です。この聖書について書きます。

キリスト教の土台となっているのは、聖書です。キリスト教の様々な教えは、聖書に書かれています。この聖書を知ることがキリスト教を理解することの土台になります。

聖書は、大きく分けると“旧約聖書”と“新約聖書”の2つになります。“旧約聖書”とは、「古い契約の聖書」という意味で、イエス・キリストが生まれる以前に書かれたものです。“新約聖書”とは、「新しい契約の聖書」という意味で、イエス・キリストが生まれた後に書かれたものです。この“旧約聖書”と“新約聖書”の2つを合わせて、“聖書”と呼んでいるのです。

「古い契約」と「新しい契約」とは何のことかと言いますと、神様と人との間に結ばれた契約のことを指しています。「古い契約」は、昔のイスラエル人と神様の間に結ばれました。具体的には、神様が与えた律法を守るなら祝福を与える、というものです。

それに対し、「新しい契約」と言うのは、イエス・キリストを救い主であり神様であると信じるなら救われる、というものです。

クリスチャンは、この「新しい契約」を神様との間で結んだ存在と言えます。

話を戻しまして、聖書について、もう少し説明しましょう。

聖書は、2000ページぐらいあります。これを始めから最後まで読むのは、大変なことです。日々の生活に追われながらこれを読み通すことは簡単なことではありません。私のまわりのクリスチャンに聖書を読み通したことがあるか聞いてみたところ、8割ぐらいの人は読み通したことがないとのことでした。それだけ難しいことなのです。

なので、本を読むのが得意じゃない人は、聖書の始めから最後まで読み通そうとは思わない方がよいと思います。私も初めて聖書を読んだ時は、聖書の最初のページからは読みませんでした。私は、新約聖書の“ルカの福音書”だけを読みました。最初は、とりあえず“ルカの福音書”を読むことをおすすめします。

私の個人的な意見ですが、イエス・キリストのことが一番良く分かるのは、“ルカの福音書”ではないかと思います。

その後は、新約聖書の“マルコの福音書”を読んだりして、新約聖書を少しずつ読み進めてみると思います。ただ、それが難しい方は、無理に聖書を読み通そうとしなくても良いと思います。クリスチャンでも、多くの人が読み通せないでいるので、読まなくても大丈夫です。

重要なのは、イエス・キリストを神様であり自分の救い主だと信じることです。そして、神様と人を愛する生活をするということです。この点を外さなければ、大丈夫です。

●聖書には、いろんな訳があるの？

聖書のどの日本語訳を読むと良いかについて少し触れたいと思います。

日本語訳の聖書でおすすめなのは、『リビングバイブル<旧新約>』と言う本です。これは、とても読みやすいです。なぜなら、キリスト教の専門用語を使わずに聖書を翻訳しているからです。初めて読むなら、この『リビングバイブル<旧新約>』が良いと思います。

『リビングバイブル<旧新約>』の情報を載せます。



価格 4200円 + 税

出版社いのちのことば社

発売日：2016/05/15

ISBN：978-4-264-03321-9

●イエス・キリストってどんな人？

イエス・キリストは、2000年ほど前に、マリヤによって生まれました。聖霊によって神の子イエス・キリストを宿したと聖書に書いてあります。これが処女降誕です。

マリヤの夫・ヨセフは大工でした。

なので、イエス・キリストも30歳ぐらいまでは、大工の仕事をしていたのかもしれませんが。

ただ、イエス・キリストが30歳になるまでの出来事は、聖書にあまり記述がなく、詳しいことは分かりません。

イエス・キリストが亡くなったのは、33歳ごろだと考えられています。そのうち、実際に宣教活動をしたのは、たった3年間なのです。しかし、世界にこれほど大きな影響を与えた人物はいません。現在、世界人口の3分の1がキリスト教徒であるとのこと。このことは、普通の人間にはできないことだと思います。やはり、こうなったのは、神様の超自然的な働きがあったからではないでしょうか。

イエス・キリストは、数々の奇跡を行いました。その奇跡について私が考えたことを書きます。

カラスは黒い。このことは、一般的な常識です。でも、中には白いカラスがいるのです。アルビノと呼ばれる白い特殊なカラスがいるのです。自分の経験で黒いカラスしか見たことがなくとも、白いカラスがいるのは事実です。これは、奇跡についても言えるのではないのでしょうか。自分の経験で奇跡の体験がないからと言って、奇跡は起きないと思いきんでないのでしょうか。人間一人の経験なんてちっぽけなものです。その自分だけの経験で物事を決めつけてはいけません。

歴史上一回しか起こらない奇跡などのできごとは、科学で証明できません。科学が証明できることは、繰り返し同じ反応をすることだけです。この世界には、科学で証明できないことがたくさんあるのではないのでしょうか。

ちなみに私は、東京の日比谷公園で白いカラスを目撃したことがあります。

●クリスチャンって、みんないい人？

「自分は善人じゃないので、とてもクリスチャンにはなれない。」という人がたくさんいます。

でも、本当にそうなのでしょうか。

イエス・キリストは、罪人のためにこの世に来られたのです。医者が必要とするのは丈夫な者ではなく、病人です。同じように、イエス・キリストを必要とするのは、罪人なのです。

人は誰でも罪人なのです。例え法律に触れることをしなくても、悪口を言ったり、人をねたましく思ったりすることは、誰にでもあるのではないのでしょうか。もし、罪があるからクリスチャンになれないと言うのなら、誰もクリスチャンになれなくなります。

そこで、僕が尊敬している牧師さんが語った、“泥水”のたとえ話を紹介しましょう。

泥水を入れたコップに水道の水を注ぐと、最初のうちは汚いままですが、だんだん綺麗になって行くと思います。一度に綺麗にならなくても、少しずつ綺麗になって行くでしょう。

そのように多くのクリスチャンは、少しずつ変えられて行くのです。なので、はじめから善人である必要はないのです。

●どこの教会に行けばいいの？

教会に行って礼拝に出席してみて、自分に合うかどうか判断してみるといいと思います。静かな礼拝を行っている教会が良いとか、元気いっぱいに賛美しているにぎやかな教会が良いかなど、自分が居心地良く感じる教会を選ぶといいと思います。

私は、ある教会の礼拝に参加した時、ものすごく感動して泣いてしまったこともあります。この経験は良い思い出になっています。

また、最初、礼拝に行った時、具合が悪くなる場合もあるかもしれません。私は、30歳の時に10数年ぶりに教会に行きました。その教会は、初めて行く教会だったのですが、礼拝中に体調が悪くなりました。

でも、それに懲りずに教会に通っていたら、だんだん楽しくなりました。

ただ、教会に通うのは、無理しないことです。体調が悪い人は、心と体と相談しながら、教会に通ってみてください。

●修行しなくていいの？

クリスチャンになると、何か修行があるのではないか、などと心配しなくても大丈夫です。キリスト教、特に私が所属しているプロテスタントの教会では、修行と言うものはありません。よくお坊さんがお経を唱えたり、座禅をしたり、滝に打たれたりしていますが、そういうものはありません。

修行のような行ないによって、救われるわけではないからです。

私は、聖書を何度も読んでいますが、これは修行のつもりでやっているわけではありません。実際、クリスチャンでも、聖書を読み通した人は、多くはないのですから。安心してください。

●献金しなくちゃいけないの？

初めて教会に行った時など、礼拝の最中に献金袋がまわってくるかもしれません。そんな時は、何もお金を入れずに、次の人に献金袋を渡してもよいのです。初めは献金しなくてもよいのです。

献金は、基本的に自由です。自分がささげようと思った金額をささげればよいのです。お金が無ければささげなくてもよいのです。

ただ、クリスチャンになって、洗礼を受けた後、教会の正式なメンバーになった時は、毎月、月定献金と言うのを納めることになると思います。でも、この月定献金の金額は、自分で決めることができます。なので、無理のない範囲で、金額を決めれば良いと思います。聖書には、収入の十分の一を献金することが推奨されていますが、それに、こだわらなくても大丈夫です。無理はしてはいけません。無理のない金額をささげればよいのです。

●神様ってどこにいるの？

神様は、全世界のどこにでも、おられます。人間は、神様から隠れることができません。また、人間の考えていることは、全て神様に知られています。なので、教会に行かないと神様に会えないとか、そういうわけではないのです。自分のいる部屋の中にもいるのです。なので、何か神様に伝えたいことがあれば、自分の部屋で、神様に祈るといいと思います。声に出さなくても、心の中で祈ってみてください。すぐに祈りの応答がないかもしれませんが、これから先の人生の中で祈りに答えてくださるかもしれません。

祈りは神様との会話です。ちょうど子どもがお父さんやお母さんとお話するのに似ています。お願いや感謝、気になることや不安な気持ちなど何でもお話しすればいいのです。神様はいつでも聞いていてくださいます。

●キリスト教の信仰とは？

ルカの福音書（23章39節から43節）に出てくるイエス・キリストと共に十字架に掛けられた、囚人は、死の間際にイエス・キリストを信じました。
この囚人は、おそらく洗礼も受けてないでしょう。
良い行いも何もしてないかもしれません。

でも、死の間際にイエス・キリストを信じたのです。
ただ、それだけで、救われたのです。
それが、全てなのです。

キリスト教の信仰とは、そういうものなのです。
修行や献金が必要というわけではないのです。

もちろん、時間とお金のある人は、献金に励むのも良いかもしれません。
また、修行と言いますか、キリスト教の勉強に励むのも良いかもしれません。

でも、それらのものは、二次的なものです。

あなたが、イエス・キリストを神として信じるかどうか、全てなのです。

～ おわりに ～

この本を最後まで読んでくださり、ありがとうございました。この本では、それほど多くのことを説明していません。キリスト教についてもっと知りたい方は、引き続きキリスト教関係の本を読むか、教会に行って、牧師さんに教えてもらおうと良いと思います。

キリスト教は、非常に奥の深い宗教です。聖書だけでも、2000ページぐらいありますし、神学を勉強しだしたらきりがなほどの広がりがあります。

そのキリスト教を、多くの人を楽しんで学べることを願っています。

最後に、この本を読んでくださった方々に、神様からの満ちあふれるほどの祝福がありますように。

<著者紹介>

深澤 信行（ふかさわ のぶゆき）



キリスト教プロテスタント

福音派のクリスチャン

統合失調症当事者

1973年神奈川県相模原市生まれ

2004年4月11日受洗

日本工学院八王子専門学校卒業

第一種情報処理技術者

HP：<http://fuka.ikrst.net>

E-mail：fuka@ikrst.net

ハンドルネーム：ふかごろう

著書：「希望の光 ～統合失調症と信仰生活～」

版の情報

初版 2012年7月30日 パプーによる電子出版

第2版 2016年11月28日 新しい章を追加・リビングバイブルの情報を最新化